

生タケノコ約43 t集荷



JA筑紫は、3月下旬から5月上旬まで、JA本店で生タケノコの集荷を行いました。総集荷量は約43 tと、昨年より約11 tの増加となりました。集荷は管内の中山間地の活性化や竹林整備を目的に取り組み、今年で12年目。

タケノコは、近年「国産」の需要が高まっているため、研修会や座談会などで出荷を組合員に呼び掛けています。

集荷されたタケノコは、大・中・小・外・穂先の規格別に分けられ、加工業者に出荷されます。

丈夫で健康な水稻育苗へ



JA筑紫と㈱JAアグリサポート筑紫は4月12日、JA本店の育苗センターで、2021年度水稻播種（はしゅ）式を行いました。

丈夫で健康な水稻苗の育苗と、作業の安全を祈ります。品種は、「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」。今年度はおよそ5万5千箱を播種し、出荷する予定です。

温湯消毒後、5日程度浸種し、催芽させた種子を播いて、発芽室で3日間、緑化室で3～4日間管理。その後、20～30日間の育苗期間を経て、農家に届けます。

白水清博組合長は「今年も組合員に喜ばれる苗を作ってほしいです」と話しました。

作業負担軽減します



JA筑紫関連会社㈱JAアグリサポート筑紫は、6月2日まで2021年産水稻種子の温湯消毒を、JA本店の育苗センターで行っています。約1万5000箱分の水稻種子を温湯消毒し、組合員の播種作業の負担を軽減します。

温湯消毒は、水稻種子を袋詰めし、60度の湯に10分間浸します。薬品を使わずに、いもち病、ばか苗病、苗立枯細菌病などの病気から種子を守る効果があります。

処理を終え強くなった種子は各生産農家が持ち帰り、4月中旬から6月上旬にかけて播種を行う予定です。

野菜を大切に育てて



JA筑紫二日市支店と二日市東出張所は、支店管内の4つの小学校に、野菜苗550本と生産資材を贈りました。JAが取り組む「ふれあい活動」の一環で、児童達に食と農の大切さを伝えるため、10年前から行っています。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、今回は感染対策を講じて実施しました。

贈呈式には、児童や地域コミュニティの役員、JA理事や職員が参加しました。児童に野菜苗を手渡した理事は「美味しい実がなるように大切に育てて欲しいです」と笑顔で話しました。

安全な作業を心がけて



JA筑紫は4月中旬、JA本店で営農生活部職員を対象に特別教育・安全衛生講習会を開き、フルハーネス型安全帯の使い方を講座と実技で学びました。

高所作業の墜落・転落防止措置の強化を図るため、2019年に労働安全衛生規則が改正。高さ2m以上で作業床を設けることが困難な箇所ではフルハーネス型の墜落制止用器具を使う業務の場合、特別教育を行うことが義務づけられました。

一般社団法人福岡経営者労働福祉協会の渡邊雅也さんを講師に招き、高所作業の危険性やフルハーネスの正しい付け方、安全性などを学びました。

受講した職員は「受講していなければ誤った使い方をする可能性がありました。有意義な講習会でした」と話しました。